

子育てに生かしたい「四訓」②③

《四訓②》◆幼児は肌を離せ 手を離すな◆

やがて幼児期になると、子供は自分でやりたいことも増え、あちこち一人で歩き回るようになります。子供同士で遊ぶようにもなり、子供の世界も少しずつ広がります。

この時期に大切なのは、「肌を離せ 手を離すな」ということです。抱っこの時期がそろそろ終わり、自分の世界ができ始めるこの時期のキーワードは「手を離さない」です。

子供が好きなように動けるのは、お母さんやお父さんなど信頼できる人がちゃんと見ていてくれるからです。まだ一人になると不安を感じ、遊びながらお母さんやお父さんがいるか確認しては安心します。これは幼児の自立の基礎になるものです。この頃にまだ肌を離さないでいると、自立心などが芽生えるチャンスを失いがちになってしまいます。

まだまだ心配な時期ですが、しっかり手だけは離さずに子供の成長を見守りましょう。

《四訓3》◆少年は手を離せ 目を離すな◆

小学校に入ると行動範囲も広がり、子供だけの世界ができ始めます。仲の良い友達もでき、友達とのトラブルにも自分たちで対処しようとし始めるのが少年期です。

この時期は、そろそろ手を離すことが必要です。手をつかみ続けていると、過干渉になってしまい自立心が育たないこともあります。ただ、少年期はまだまだ子供です。やることも考えることもまだ幼いものです。だからこそ、しっかりと目だけは離さないでおきましょう。

トラブルの気配や、元気がないなど、「何かあったのかな？」と感じたときは、フォローしてあげることも必要です。子供の世界は尊重して干渉しすぎないように、ほどよい距離感を保てると思います。